



Baxter International Inc.
One Baxter Parkway
Deerfield, Illinois 60015-4625
USA

www.baxter.com

バクスターのサステナビリティ 2013年報告書



 **オンライン版(英語)をご覧ください。**

2013年サステナビリティ報告書オンライン版には、
当社のサステナビリティ活動とその成果の詳細を
掲載しています。オンライン版は、
sustainability.baxter.comにてご覧いただけます。

本報告書に記載されている史実以外の記載には、将来のコンプライアンスや業績に関する記述など、現時点における将来の見通しが含まれています。これらの見通しはさまざまなリスクや不確定要素を伴います。したがって、多くの要因により、実際の将来の結果と現時点における見通しとの間に乖離が生じる可能性があります。それらの要因には、米国食品医薬品局(FDA)を含む規制当局やその他政府機関の施策、経済情勢の影響、医療技術の進歩、環境保護の進展などが含まれます。その他の要因については、Form 10-Kをはじめ、米国証券取引委員会(SEC)に提出した文書をまとめた当社の年次報告書をご覧ください。同報告書はウェブサイト(www.baxter.com)にて公開しています。なお、当社は将来の見通しを更新する一切の責任を負いません。

本報告書における「バクスター」とは、バクスターインターナショナルリンクおよび米国内外の子会社の総称です。

Baxter、Feiba、Floseal、Science@Work、Vivalはバクスターインターナショナルリンクの登録商標です。本報告書中のその他すべての製品名または商標にかかる権利は、それぞれの所有者に帰属します。





全体像

企業概要

バクスターの使命は患者さんの生命を守ることです。当社は日々、何百万人もの患者さんの生命を支えています。多様性に富んだグローバルヘルスケア企業として、バクスターは医薬品、医療機器、バイオテクノロジーの専門技術を活用し、世界の医療の向上に寄与する製品を創出しています。私たちは、イノベーションを推進し、当社製品へのアクセス向上に取り組むとともに、創造的な協業を通して、世界中のより多くの患者さんのために当社の使命を果たしてまいります。

バクスターのサステナビリティ

「患者さんの生命を守る」、この当社の使命は、あらゆるステークホルダーの皆さんに長きにわたって社会的、環境的、経済的価値を提供するという、サステナビリティにかける私たちの情熱に支えられています。当社のサステナビリティの取り組みは広範にわたりますが、優先事項を定め、重点的に取り組むことが重要だと考えています。当社はサステナビリティに関する9つの優先事項を定め、それらを「従業員」「事業活動と製品」「社会」の3つのカテゴリーに分類し、各優先事項について達成目標を設定しています（P.2を参照）。これらの優先事項では、当社にとって最も重要な課題や、特に大きな貢献ができる分野を取り上げています。

当社の役員により構成するサステナビリティ運営委員会は長期的なサステナビリティ戦略を策定し、サステナビリティと日々の事業活動を一体化させる取り組みを牽引しています。同委員会は、サステナビリティの優先事項を支援し、経営幹部とともに2015年目標の達成責任を負っています。定期的に開催する会議では、目標に対する進捗状況を確認し、実績と目標とのギャップへの対応を議論するとともに、新たなサステナビリティの取り組みを検討しています。

第三者検証



バクスターはビューローベリタス・ノースアメリカ社 (Bureau Veritas North America, Inc.: BVNA) に委託し、2013年サステナビリティ報告書オンライン版の環境・衛生・安全 (EHS)、サプライチェーン、製品責任 (一部) のセクションと本冊子中の関連情報について第三者検証を実施しました。またBVNAは、バクスターのスコープ1、スコープ2及びスコープ3の温室効果ガス排出データの検証も行いました。こうした検証の結果、正確性と信頼性があり、重大な誤りや虚偽の記載がないと判断された項目には、このチェックマークが付いています。第三者検証に関する詳細についてはオンライン版 (英語) をご覧ください。

会長兼CEOからのメッセージ

ステークホルダーの皆さん



バクスターがヘルスケア企業としてのバイタリティを維持し、ステークホルダーへの責任を果たしていくためには、新しいものを積極的に取り入れることが重要です。たとえば患者さんや医療従事者の皆さんにお届けするサービスの決め手となる技術革新を進めるだけでなく、新たなビジネス手法を取り入れ、一企業およびグローバルな企業市民として更なる高みを目指すことが求められています。

2014年3月に当社は、分社化を行うことを発表しました。分社後は2つの独立した企業として新たな歩みを進め、それぞれの立場を強化してまいります。それにより世界の患者さんの現行の医療へのアクセスを拡大し、アンメットニーズに応える新たな製品を世に送り出すとともに、その他の重要な事項や目標にも取り組んでいきます。

2社ともに、「責任ある事業活動に基づく持続可能な成長」というバクスターの伝統を受け継ぎ、社会、環境、経済の普遍的価値を作り出していくものと確信しています。ちょうど今年はバクスターのサステナビリティ報告書発行15周年に当たりますが、本報告書をお読みいただければ、当社が常に変わらぬ決意に基づき、様々なステークホルダーの皆さんのために取り組みを進めていることをお分かり頂けるかと思えます。

2013年にバクスターは、温室効果ガスの排出やエネルギー消費量、水の使用量を削減するとともに、開発途上国において主要な医療へのアクセスを拡大することに取り組みました。また災害の被災地域にいち早く当社製品を届けるよう努めました。さらに将来の科学革新のため、科学・技術・工学・数学 (STEM) 教育の推進を支援しています。このように当社はそのあらゆる目標を達成してきましたが、それでもなお、社会により良い変化をもたらすことのできる機会が数多く残されています。

当社のサステナビリティ運営委員会は、社内組織やステークホルダーの期待内容の変化を勘案しつつ、当社戦略の評価を行っています。また当社の未来に向けた願いを反映する目標の再設定を進めています。

ステークホルダーの皆さんのニーズに応えたいという思い、それが当社業績をさらに押し上げる原動力となっています。世界中のバクスターの従業員が、あらゆる機会を捉えて当社のサステナビリティ原則を事業戦略や事業活動全般に取り入れようと努めています。また私も、その進捗を維持するよう奨励しています。今後もバクスターは、「患者さんの生命を守る」という使命を一丸となって追求し、社会にインパクトを与え続けていきます。

2014年6月

バクスターインターナショナルリンク
会長兼CEO
ロバート・L・パーキンソン・ジュニア

Robert L. Parkinson, Jr. June 2014

バクスターにおけるサステナビリティの 優先事項と目標 (特に記載のない限り2015年の目標)



従業員

p. 4-6

安全で健康な活力ある職場づくりを推進します

・従業員の安全確保と健康増進のための業界トップレベルのプログラムを実施し、業界トップ3に入る実績を達成します。

多様性に富んだ受容性のある職場環境を推進します

・多様な意見や考え方、経歴、経験が尊重される受容性のある企業文化を築き、維持します。

倫理的な行動と法令遵守を推進します

・以下の行動を通じて、社内外で倫理的な営業およびマーケティング活動をリードします。
» 米国医療コンプライアンスプログラムと国際腐敗防止方針を強化し、実施します。
» 米国内外の業界団体、NGO、政府と協力し、医療従事者との金銭授受に関する基準を統一して実施することにより、製品とサービスに関する適切な教育、研究、対話を促進し、不適切なインセンティブを抑制します。



事業活動と製品

p. 7-10

持続可能なサプライチェーンを推進します

・当社の購入計画に、サステナブル原則を適用します。
・米国内の社用車の走行距離1km当たりの排ガス量を2007年比で20%削減します。

カーボンフットプリントの削減を推進します

・売上高を指標として、温室効果ガス排出量を2005年比で45%削減します。
・事業所におけるエネルギー使用量に再生可能エネルギーが占める割合を、全体の20%まで高めます。

資源使用量の削減を推進します

・売上高を指標として、エネルギー使用量を2005年比で30%削減します。
・売上高を指標として、水資源使用量を2005年比で35%削減します。この目標達成に向け、2010年までに当社の事業所に関連する水源のうち脆弱性が疑われるものを評価し、リスクの高い地域の水資源保全のための積極的な目標を設定します。
・脆弱な水源を保護し、地域の人々の清潔な水へのアクセスを拡大するためのプロジェクトを2件実施します。
・売上高を指標として、廃棄物発生量を2005年比で30%削減します。
・顧客への製品配送に使用する包装資材を2007年比で5,000トン削減します。

環境保全のための製品責任(プロダクト・スチュワードシップ)の強化を図ります

・ライフサイクル・インパクトの評価および最小化と新製品および包装資材における環境負荷物質の排除または軽減により、環境に配慮した、持続可能な製品設計を推進します。
・動物試験の代替手段の利用(replace)、回数削減(reduce)、改善(refine)の3Rの原則を実践できる新たな機会を特定します。



社会

p. 11-12

製品開発や効果的な製品の無償提供を通して、医療へのアクセスを向上させます

・BOP市場または発展途上国において医療へのアクセスを改善する新たなビジネスモデルを構築します。
・外部の協力機関とともに、2010年以降の製品の無償提供に関する計画を策定し、実施します。災害や惨事において製品を迅速に現地へ供給すること、最も必要とされる製品の安定供給に向け製品を提供すること、発展途上国において最も必要とされる製品を提供することなどを目的として、製品の無償提供を行います。

理数科を中心とした教育支援を推進します

・シカゴ公立学校の教師および学生を対象に、バイオテクノロジー教育を実施し、理数科教育を促進します。また、シカゴ以外の地域においても、教育機関と連携して同様の教育機会を提供します。



安全で健康な活力ある職場づくりを推進します

安全で健康な活力ある職場づくりはバクスターの重要な課題です。当社は、従業員が職場で負傷する危険性をさらに低減し、健康増進を図るための方法を常に追求しています。2013年も引き続き主要戦略を実施し、社内の安全文化と安全実績の向上に努めました。

2012年現在の最新データによるヘルスケア企業14社との比較¹において、当社の休業災害の発生率²は2番目に低い数値を誇っています。この結果が示す通り、バクスターは2015年目標の達成に向けて順調に進んでいます。2005年以降、バクスターの安全実績は大きく向上し、記録対象となる傷病の発生率は2012年比で2%低下し、休業災害も発生率で38%、労働損失日数率で46%の減少となりました。当社は引き続き、労災ゼロに向けた取り組みを続けていきます。

バクスターは安全文化と安全実績を向上させるために以下の戦略を一体的に実施しています。

- 傷病の主な原因である人間工学上の危険要因への取り組み。
- 傷病の高危険源の低減。
- 社内タスクフォース「未来の安全 (Future State of Safety)」の一環として、安全向上戦略の策定を率先して行い、この取り組みへの従業員の関与を促進する。



「BeWell@Baxterエクササイズチャレンジ」月間に屋外で凧揚げを楽しむ中国の従業員とその子供たち

当社は従業員の健康増進を目的とした、さまざまな取り組みを統合したプログラム「BeWell@Baxter」を実施しています。その基軸として、個人および事業所単位で健康リスク情報を提供するオンラインツール「従業員健康調査票 (Personal Wellness Profile)」があります。2013年には、全世界の従業員の29%が調査票の記入を完了しました。また同年には、世界中で11,000人を超える従業員が、従業員の運動促進キャンペーン「BeWell@Baxterエクササイズチャレンジ」の一環として175,000時間以上におよぶ運動を行いました。

¹14社のうち10社はマーサー社 (IBORC社) にグローバルな安全性データを報告、3社はバクスターの依頼に基づきデータを提供、1社は企業ホームページにて報告。

²従業員が事故の発生翌日から1日以上の休業を余儀なくされる業務上の傷病事故の、正社員100人の1年当たりの発生率。

多様性に富んだ受容性のある職場環境を推進します

バクスターは、受容性の高い文化や多様性に富んだ従業員が革新を起こす原動力となり、顧客、サプライヤー、地域社会との信頼関係の構築、ひいては事業の成功と持続可能性につながると考えています。そのために、「バクスターで期待されるリーダーシップの要素」に一人ひとりの多様な貢献を尊重することを含め、これを従業員共通の価値観としています。



バクスターのビジネス・リソース・グループは事業目標の達成を支援し、従業員一人ひとりの成長と多文化理解を促進すると同時に、従業員同士の関係やステークホルダーとの関係を強化することを目的としています。

当社は、従業員の人種や性別の多様性を全社的に高めることを重視しています。当社のグローバル・インクルージョン協議会も、受容性に富んだ企業文化をさらに強化するべく、ソートリーダシップやガイダンス、サポートを提供しています。当社の各地域、各事業部、各部門は同協議会と協力し、それぞれのインクルージョン計画を策定しています。

2013年には、ビジネス・リソース・グループ (BRG) に以下3つのグループを追加し、合計8つのBRGとしました。Baxter EnAblesは、身体、知覚、認識障害を抱えた従業員やそのような方々を支援している従業員を対象とし、BaxVetsは兵役経験者・兵役中の従業員を、Early Career Professionals はまだ経歴の浅い従業員を対象としています。一部のBRGについては、グローバルな試みも既に始まっています。経営陣の支援のもと、BRGは従業員がスキルを磨き、社内の人間関係を強化し、社内外で異文化交流を進める機会を与えるためのフォーラムを開催し、重要な事業の取り組みを支えています。

また受容性 (インクルージョン) と多様性 (ダイバーシティ) を高める努力を市場にも拡大しています。バクスターのサプライヤー向け多様性プログラムでは、小規模事業者をはじめ多様なサプライヤーとの相互に利益をもたらす関係の構築に向けて、BRGとの協力を図っています。



倫理的な行動と法令遵守を推進します

腐敗行為は世界経済に重大な問題をもたらし、ヘルスケア企業や患者さんを危険にさらす可能性もあります。持続的な発展を妨げ、格差を助長し、公的機関を弱体化させ、経済成長を減速させる原因となります。ヘルスケア業界の腐敗行為は、患者さんやその他のステークホルダーの信頼を損ない、事業コストを増加させるとともに、法的問題や企業の評判にかかわる重大なリスクをもたらします。

当社は包括的な行動規範や方針、研修、その他のプログラムを通じて、従業員に求められる行動を規定し、管理しています。特に、米国内外における倫理的な営業・マーケティング活動の推進に力を注いでいます。当社の倫理・コンプライアンス基準に抵触する可能性がある不適切な意思決定や行動を防ぐため、正式なチャネルを通じて助言を求め、問題を報告するよう従業員に促しています。



バクスターは、当社、従業員、および第三者の医療業界との関係に関する施策を強化しています。たとえば、相互のマネジメント、透明性、統制を強化する新たなシステムやプログラムに投資するなどしています。また2013年にも「第三者との取引承認に関わる国際汚職防止ポリシー」を引き続き世界各国で施行

し、特に米国外の医療従事者や政府機関と接触するビジネスパートナーを対象として重点的に取り組みました。また、リスクに基づいた腐敗行為防止研修プログラム「Compliance Fitness」の継続的強化に向けて、特定のハイリスク市場に従事する営業チームや部門チームを対象とした集中講座の充実を図りました。

また腐敗防止基準の標準化や強化に向けて、米国の複数の業界団体や国際業界団体（中国研究開発製薬企業協会（RDPAC）、欧州医療機器産業連合会（Eucomed）およびメキシコ先端医療装置産業協会）と連携しています。さらに、バクスターのアジア太平洋地域および中国の各倫理・コンプライアンスチームは、米国先端医療技術工業会（AdvaMed）のチャイナ・カウンシルに参加し、AdvaMed会員企業の中国事業に関する業界行動規範の策定に取り組みました。



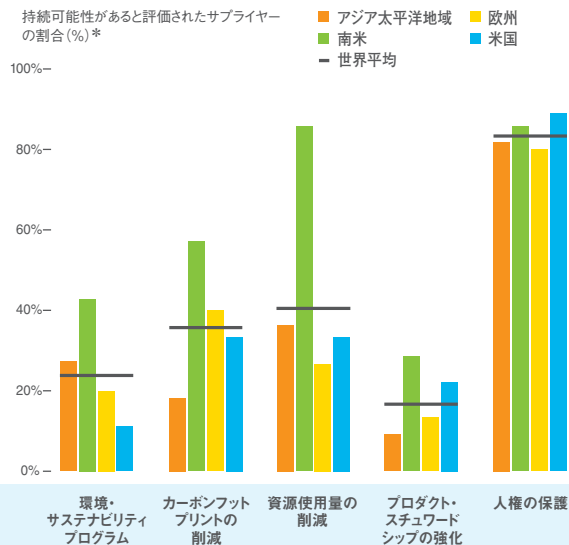
持続可能なサプライチェーンを推進します

バクスターは、持続可能なサプライチェーンの推進を図っています。この取り組みを通してリスクを緩和し、サプライヤーと協力して革新を進めるとともに、環境負荷を低減しています。また当社は、エネルギーの使用、温室効果ガスの排出、廃棄物削減などの持続可能性に関わる重要な事項に取り組むよう、バリューチェーン全般にわたってサプライヤーに促しています。さらに責任ある調達を重要と考え、紛争鉱物に関する規制、人権の促進、原材料関連の環境負荷の低減などに取り組んでいます。

2013年にバクスターは、責任ある調達を進めるヘルスケア業界団体「製薬サプライチェーンイニシアティブ」（Pharmaceutical Supply Chain Initiative）に加入しました。またサプライヤーのサステナビリティに関する5回目の年次調査を実施し、各サプライヤーのプログラムやパフォーマンスに関する基本的情報を収集しました。さらにサプライヤーに対し、バクスター製品の原材料の供給源や化学物質含有量を特定するよう要請しました。

製品輸送時の環境負荷を減らす取り組みも続けています。たとえば、共同積荷、配送ネットワークの最適化、エネルギー消費の少ない輸送手段へのモダルシフトなどを進めています。

サプライヤーのサステナビリティに関する調査の結果（2013年）



*各カテゴリーの質問の90%以上に対して肯定的な回答（「はい」または「進行中」）をした場合、該当欄について、そのサプライヤーは「持続可能性がある」と評価される。



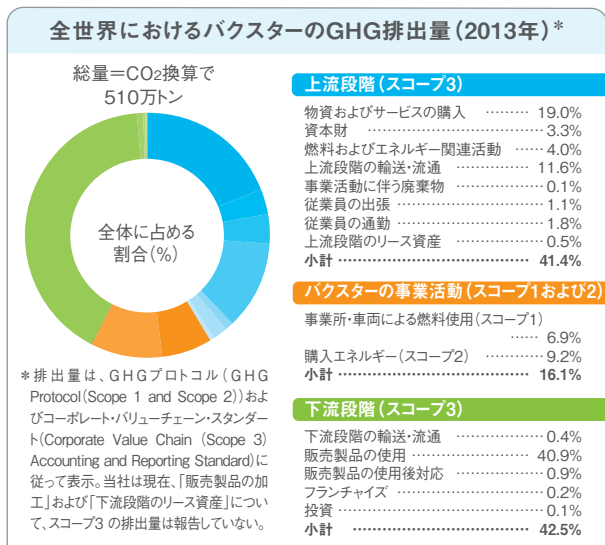
カーボンフットプリントの削減を推進します

気候変動に影響を及ぼす温室効果ガスの排出削減に対して、企業は重要な役割を担っています。そのためには、まず温室効果ガス (GHG) がもたらす影響を理解し、次に排出量削減に向けた目標を設定します。そのうえで、画期的なプログラムを通じて排出量を削減することが重要です。

当社は多面的なアプローチを通じて、事業活動全体にわたるGHG排出量の測定と管理を行っています。2013年の事業活動に伴うGHG純排出量は、CO₂換算で714,000トンでした。売上高を指標とした場合2005年から40%、絶対値では10%の削減となりました。

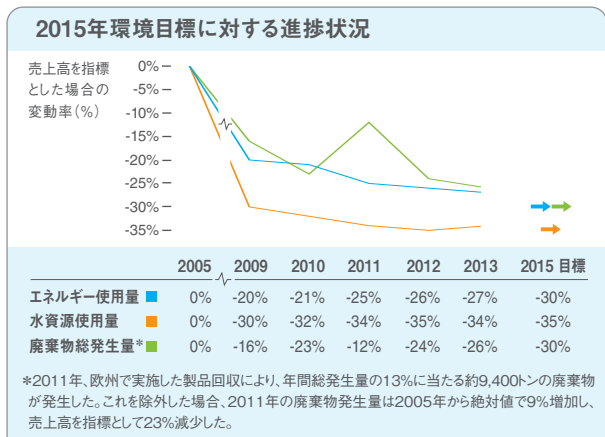
2013年の事業活動に伴うエネルギー使用量の22%は再生可能エネルギー源によるもので、2015年目標を上回っています。そのうち9%は3事業所で使用されたボイラー用バイオマス燃料で、13%は再生可能エネルギー源による電力の購入分と再生可能エネルギー証書を合わせたものです。また少量ながら、複数の事業所に設置された地熱システム、太陽光発電システム、太陽光温水システムによる再生可能エネルギーも含まれています。

2013年には、マルタ事業所にバクスターとして最大規模となる太陽光発電システム (836kW) を導入するという画期的なプロジェクトを実施しました。マルタ事業所が要する電力の約23%をこのシステムで賄えるため、当該事業所からの温室効果ガス排出をCO₂換算で年間1,100トン削減できることになりました。また当社はオーストラリアのトゥーンギャビー事業所にトリジェネレーションシステムを導入しました。このシステムは電力に加えて冷暖房用のエネルギーも供給することにより、製造作業を支えています。



資源使用量の削減を推進します

環境パフォーマンス改善や競争力を高めるとともに、次世代に多くの資源を残せるよう、資源の有効活用に取り組んでいます。



資源使用量の2015年までの削減目標達成に向けて前進し続けています。

エネルギー: 事業所のエネルギー評価を含むリーンエネルギープログラムや、コジェネレーション、地熱システムなどの革新的な技術の導入を中心として、エネルギーの削減に取り組んでいます。2005年以来、さまざまな省エネルギーの取り組みを通じて、2013年までに年換算で累計約4,100万ドルのコスト削減を実現しました。

水資源: 水処理とエネルギー使用は密接に関連しているため、節水はリーンエネルギープログラムや事業所のエネルギー評価において重要なポイントとなっています。バクスターは、リーン生産方式の原則やツール (バリューストリームマッピングなど) を水資源管理と結びつけることによって、さらなる節水が可能な分野を特定しやすくしています。

廃棄物: 廃棄物削減の取り組みを続けています。2013年には、プラスチックごみ削減プログラムに参加している8つの事業所が444トンを超える削減を達成しました。当社の廃棄物に関するパフォーマンスをさらに高めるために、一部地域において「埋め立て廃棄物ゼロ化」の取り組みを先行実施しています。

包装: 使用材料が少ない画期的なデザインを開発し、可能な限り使用素材を環境にやさしいものに変更することにより、環境負荷の軽減に取り組んでいます。



環境保全のための製品責任 (プロダクト・スチュワードシップ) の強化を図ります1

当社は、環境負荷を最小限にとどめ、人々の生命を守る製品を開発することに全力を注いでいます。そのためには、製品設計や材料選定の初期段階から、製造、輸送、そして製品の使用後に至るまで、全体を見渡した包括的なアプローチが欠かせません。



ペルトリコのサンファンに暮らすエリック・クイレス・ベレスは、血友病Aインヒビター治療のため、バクスターのFEIBA (乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体) の投与を受けています。ベレスが膝の手術を受けた際、執刀医チームは出血をコントロールするため、吸収性局所止血材Flosealを使用しました。

当社の製品サステナビリティプログラムでは、輸液の容器から透析装置まで、すべての医療機器の開発初期段階において評価を行うことが義務付けられています。この評価結果に基づいて、製品化の実現可能性の確認、製品要件の明確化、健康や環境への影響の最小化を図っています。

またバクスターは、ライフサイクルアセスメント (LCA) を用いて自社製品の環境パフォーマンスを評価し、環境負荷の軽減方法を決定しています。2013年には、当社の在宅血液透析システム「VIVIA」と、他の2つの在宅用血液透析 (HD) 装置 (自社従来製品、および他社製の在宅HD装置) の比較LCAを実施しました。HD装置とは、血液を体外に取り出し、ダイアライザーと呼ばれる透析器 (人工膜) を使って透析する装置で、末期腎臓病の一部の患者さんが使用します。VIVIAシステムは、腎不全患者さんが高用量透析治療を在宅で行うためのもので、ダイアライザーや血液セットの使用期間の延長などによって、透析できる回数や期間が拡張されています。今回の比較LCAの結果、1週間当たりの使用回数がVIVIAシステムよりも少ない院内治療用HDシステムと比べ、VIVIAシステムのカーボンフットプリントは約35%少ないこと、また他の2つの在宅用高用量透析システムと比べても20~40%少ないことがわかりました。

当社は、動物試験に関する3R (Replacement=代替手段の利用、Reduction=回数の削減、Refinement=改善) の原則を通じて、動物福祉の向上に力を注いでいます。2013年にも引き続き、生物学的治療法の開発や試験における代替手段の利用を図りました。

1第三者検証の対象は、この優先事項の1つ目の目標「持続可能な製品設計の推進」。P.3を参照のこと。



製品開発や効果的な製品の無償提供を通して、医療へのアクセスを向上させます

社会基盤の不備、政情不安、教育不足、貧困、厳しい規制、医療品の供給力や購買力の不足など、さまざまな要因に阻まれて医療を受けられない人々がいます。当社は、世界中で医療へのアクセスを向上させることに取り組んでいます。

2013年も引き続き、アメリカ (AmeriCares) およびダイレクト・リリーフ・インターナショナル (Direct Relief International) と協力し、支援が行き届かない地域のニーズや非常事態に対応するため、製品の備蓄を行いました。こうした積極的な製品無償提供によってタイムリーに支援できた国は81か国に上ります。アメリカアーズとダイレクト・リリーフは、バクスターの備蓄製品を、フィリピンを襲った台風ハイヤンの被害者救済に使い、さらにバクスターも追加の必要品を直接被災地に送りました。

当社とバクスターインターナショナル基金による2013年の寄付総額は6,400万ドルを超えました。その大半が医療へのアクセス向上に向けた取り組みに活用されています。

ビジネスモデルの革新と同時に、バクスターは世界中の患者さんのアンメットニーズを満たす製品や治療法の開発に取り組んでいます。開発途上地域では、インフラの未整備や貧困、資源の欠如などに主に取り組んでいます。



上海の浦東新区の塘橋に暮らす高齢者は、バクスターインターナショナル基金が助成しているプロジェクト・ホープの支援により在宅医療ケアを受けています。

2013年にもバクスターは、新興市場、先進市場両方の医療ニーズに対応する革新的なハブを構築することによって、中国およびインドでのビジネスモデル革新プロジェクトを進めました。具体的には、中国蘇州に研究・設計 (R&D) 施設を設立する一方、インドでは地元企業とのR&Dパートナーシップを拡大しています。例えばSyngene社との協力を拡大した結果、バンガロールにSyngene社のバクスター専用グローバルリサーチセンターが開設されました。またR&Dエンジニアリングサービスに関し、HCLとも引き続き協力を行っています。



理数科を中心とした教育支援を推進します

世界中のリーダーは、現代の青少年にとって最も重要な課題のひとつとして、科学・技術・工学・数学 (STEM) 教育を挙げています。ヘルスケア企業である当社は、この分野において果たすべき重要な責任があります。そこで、専門能力の開発や実践的な体験学習を交え、既存の教育プログラムの充実を図る取り組みを地域単位で実施し、未来を担う世代の啓発に取り組んでいます。

2012年から始まる学年度において、シカゴの公立学校を対象とした複数年にわたるプログラム「Science@Work: Expanding Minds with Real-World Science」(生きた科学を学び、視野を広げる)は、教師向けのバイオテクノロジーに関する綿密な指導や授業計画の提供を通じて、21,000人の学生と340人の教師の参加を集めました。2008年以来、のべ83,000人以上の学生と1,000人以上の教師がこのプログラムに参加し、これはこの地区の全高校145校のうち45%に当たります。この他にも、シカゴやその他の地域において、当社はさまざまな教育支援活動を行いました。

2013年には高校生向けの第2回サマーインターンシップ・プログラムを実施しました。このプログラムの期間中に、24人のシカゴの公立高校3年生がバクスターのグローバル本社(イリノイ州ディアフィールド)で25の講座を受けました。参加した学生はR&D体験したほかに、75人のバクスターの社員から、ビジネス戦略、マーケティング、販売など様々なトピックについて学びました。加えて当社はノースウェスタン大学のSTEM教育パートナーシップ事務局(Office of STEM Education Partnerships)やリンドブロム理数アカデミーのバイオテクノロジー・センター・オブ・エクセレンス(Biotechnology Center of Excellence)と提携し、バイオテクノロジーのプロフェッショナルを育成するための4つのワークショップを行いました。このワークショップにはシカゴ地域の87校から116人の教師が参加し、バイオテクノロジーや関連の科学技術、技能について学びました。またバクスターの会長兼CEOであるロバート・L・パーキンソン・ジュニアがワークショップの基調講演を行いました。

その他の教育支援活動として、FIRST® (For Inspiration and Recognition of Science and Technology) ロボットコンテストのアーカンソー地方大会の発足を支援するとともに、アーカンソー、イリノイ、ニューヨーク、ウィスコンシン、メキシコの学生チームの支援を行いました。またバクスターの従業員は、ジュニア・アチーブメント(Junior Achievement)の一環として米国内外で財務会計の指導を行い、法律に関する非営利団体であるStreet Law, Inc.との協力において、さまざまな法律問題に関する授業を学生に行いました。

データ概要

詳細なデータとグラフについては、オンライン版(英語)の関連項目をご覧ください。

成果指標	2011	2012	2013
企業概要			
売上高(単位:100万ドル)	\$13,893	\$14,190	\$15,259
研究開発費(単位:100万ドル)	946	1,156	1,246
従業員			
従業員総数	48,500	51,000	61,500
性別の多様性(女性の比率)	51.3%	50.8%	50.5%
環境・衛生・安全(EHS)			
事業活動に伴うエネルギー使用量(単位:兆ジュール) ¹	9,261	9,348	9,636
事業活動に伴うGHG純排出量(単位:CO ₂ 換算1,000トン) ²	732	701	714
廃棄物の総発生量(単位:トン) ³	73,880	64,500	65,330
水資源使用量(単位:1,000m ³)	14,000	14,067	14,760
記録対象となる傷病の発生率 ^{4,5}	0.95	0.90	0.88
休業災害の発生率 ^{4,5}	0.16	0.15	0.10
労働損失日数率 ^{4,5}	5.47	4.35	2.37
地域支援			
寄付総額(単位:100万ドル) ⁶	\$80.14	\$56.67	\$64.63

1 固定発生源(オンライン版の表「エネルギー使用量と温室効果ガス排出量(Baxter Value Chain Energy Usage and Greenhouse Gas Emissions)」の「固定発生源小計(Stationary Sources Subtotal)」の項目)を含み、社用車、材料および製品の配送、従業員の通勤・出張によるエネルギー使用量を除く。

2 事業所におけるエネルギー使用量(消費燃料および購入電力の双方に由来するもの)、営業用および配送用車両、その他の車両、冷却材の損失に関連する排出量が含まれる。再生可能エネルギーの購入、カーボンクレジット、カーボンオフセットも勘案されている。2011年、2012年および2013年については、ビューローベリタス・ノースアメリカ社(Bureau Veritas North America, Inc.)が、当社が管轄する全世界の事業活動に由来するスコープ1およびスコープ2のGHG排出量、ならびにスコープ3のGHG排出量を計算するために用いられた方法と排出係数を検証。

3 現状では患者さんが未使用の製品を廃棄したい場合、当社に返却するよりも、自分で廃棄する可能性が高いため、米国腎疾患在宅医療(United States Renal Home Care)の事業に関連する廃棄物は除く。建設および取り壊しによる廃材、修復に伴う廃棄物、廃水処理による汚泥も除く。全社の合計値からこれらの廃棄物カテゴリーを除外することにより、事業所の成果と長期的な傾向について、より一貫性のある評価が可能になる。

4 比率はすべて20万時間(常勤従業員100人の1年間の就業時間数に相当)当たりの発生件数または日数。米国労働安全衛生局(OSHA)が定める記録管理法を全社的に適用。休業や労働制限が適用される日数について異なる医学的見解が示される場合は、最も権威のある医師の見解に基づいて記録。

5 記録対象となる傷病: 応急手当以上の治療を必要とする業務上の傷病(休業災害を含む)。休業災害: 従業員が1日以上休業を余儀なくされる業務上の傷病事故。労働損失日数: 業務上の傷病により休業した日数(土日・祝日を含む)。最も権威ある医師の見解に基づく。傷病発生日と完全に職務復帰した日は含まない。

6 製品の無償提供、当社の事業部および事業所が行った資金援助、バクスターインターナショナル基金による寄付を含む。金額の年次変動は、地域のニーズや災害救援活動の規模、規制環境、製造工程、製品構成およびマーケティングの変更などによる。適宜地域のニーズに応じて無償提供の機会を特定している。